

1 基本的事項

策定趣旨	コロナ禍を経て顕在化した課題への対応や、人口減少社会において、観光が地域を支える基幹産業として、県内総生産の維持や地域経済の活性化に寄与するために、県や市町村等の行政機関、観光事業者、住民、観光客などが一体となって、総参加による魅力あふれる観光地域づくりを推進するため、観光政策の基本計画として策定するもの。
計画の位置づけ	■みやぎ観光創造県民条例に定める基本計画 ■新・宮城の将来ビジョンに掲げる分野別計画
計画期間	令和7年4月から令和10年3月まで【3か年】

2 基本理念・目指すべき姿

基本理念（案）

地域が主役となる持続可能な観光地域づくりを通した
“All round”な観光地の実現

“多種多様な”方々が集う観光地

国内外から関心が高く、老若男女問わず訪れたいと思える観光地を目指します。

“オールシーズン”賑わう観光地

四季折々の観光コンテンツを軸に、平日及び閑散期における観光需要の底上げを図ります。

宮城県を玄関口に“東北全体”へ誘客拡大

東北地方のゲートウェイとしての機能を果たし、宮城県が率先して、東北地方への誘客拡大を図ります。

観光を核に“地域経済全体”を活性化

交流人口の拡大により、地域の産業や雇用を創出し、地域経済の活性化を図ります。

関係者全員参加型

行政機関や観光事業者、観光団体などと継続して意見交換を行い、全員参加型で魅力ある観光地をつくります。



本県の観光が目指すべき姿

地域資源を活かした観光コンテンツの提供により、県内の隅々まで観光客が訪れる観光地を目指します。
戦略1

地域経済の活性化に向け、地域を支える基幹産業である観光産業の持続的な発展を目指します。
戦略2

観光客の受入基盤を強化し、質の高いサービスの提供により、何度も訪れたい観光地を目指します。
戦略3

宮城でしか経験できない価値を効果的かつ積極的に情報発信し、国内外から訪れたい観光地を目指します。
戦略4

3 数値目標

設定の考え方

- 第5期プランで定めた3つの指標（宿泊観光客数、外国人観光客宿泊者数、観光消費額）は継続的にモニタリングする。
- 宿泊観光客数については、圏域ごとにR元年水準までの回復率に差が生じていることから、圏域ごとの目標値を設定する。
- 観光消費額の増加に向け、「質」の向上を意識し、新たに観光消費額単価を追加する。

目標指標		R元	R5年	R9年
1	宿泊観光客数	989 万人泊	943 万人泊	1,104 万人泊
2	外国人観光客宿泊者数	53.4 万人泊	51.5 万人泊	120 万人泊
3	観光消費額	3,989 億円	3,985 億円	5,300 億円
4	観光消費額 日本人単価	22,710 円／人	26,640 円／人	29,000 円／人
	外国人単価	54,526 円／人	71,768 円／人	79,000 円／人

※宿泊観光客数については、圏域ごとに回復率に差が生じている状況を踏まえ、圏域ごとの目標値を設定予定

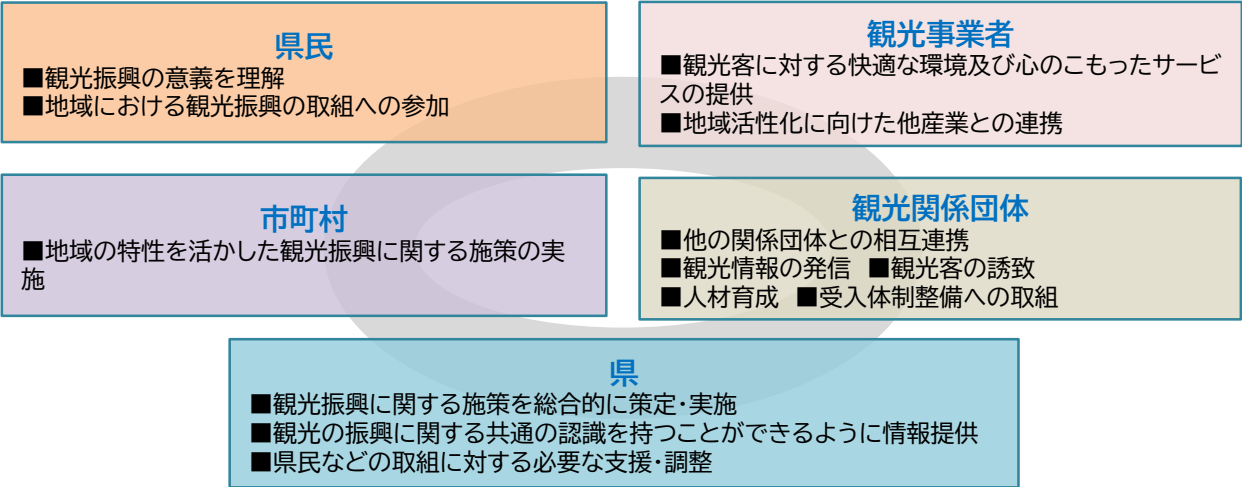
	R元(実績値)	R5(確報値)	R元年比	R9(目標値)
仙 南 圏 域	71 万人泊	63 万人泊	88.7 %	75 万人泊
仙 台 圏 域	742 万人泊	727 万人泊	98.0 %	830 万人泊
大 崎 圏 域	77 万人泊	54 万人泊	70.1 %	87 万人泊
栗 原 圏 域	11 万人泊	9 万人泊	81.8 %	11 万人泊
登 米 圏 域	9 万人泊	8 万人泊	88.9 %	9 万人泊
石 巻 圏 域	38 万人泊	42 万人泊	110.5 %	44 万人泊
気仙沼・本吉圏域	42 万人泊	40 万人泊	95.2 %	48 万人泊

観光成果指標の設定

■上記に加え、観光施策による成果・検証を行うため、毎年度以下の項目を「観光成果指標」として継続的にモニタリングする。
【指標例】リピーター率／再来訪意向／観光地としての推奨度／県民の出国者数／外国人観光客に対する受入意向／サステナブルツーリズムに対する認知度

4 観光推進体制

■第6期みやぎ観光戦略プランを推進するためには、みやぎ観光創造県民条例に基づき、県、県民、観光事業者及び観光団体などが各々の役割を認識し、県民総参加で観光地域づくりを推進していく必要がある。



第6期みやぎ観光戦略プラン最終案②

5 みやぎの観光を取り巻く状況(現状・課題)

社会背景	■人口減少社会において、交流人口や観光消費額の減少により、地域の衰退につながる恐れがある。(⇒観光SDGsの推進) ■観光立国推進基本計画において、インバウンド回復戦略に基づき、インバウンドの誘客促進や消費向上に向けた取組を推進している。(⇒インバウンド需要・宿泊需要の積極的な取り込み) ■観光産業は、デジタル化の遅れに象徴される生産性の低さや人材不足といった積年の構造的課題を抱えている。(⇒デジタル技術の積極的な活用)
【県観光課題①】	宿泊者数の増加による観光消費額の拡大 戦略1 戦略4
	■宿泊者数の回復率(R元年比)で、圏域ごとに差が生じている[約7、8割程度の圏域もあり] ■宿泊者数の回復率で、全国的にも三大都市圏と比較し、地方部で遅れ[5%程度の差] ■インバウンドの全国シェアが、依然として低い。[宮城県0.5%、東北全体1.5%]
【県観光課題②】	地域の基幹産業である観光産業の体制強化 戦略2
	■コロナ禍によりスタッフの離職が相次ぎ、人員不足が深刻な状況にあり、人手不足のために、稼働率を抑えている状況にある。 ■宿泊業の賃金や労働生産性が、全産業平均よりも下回っている。 [賃金:全産業507万円、宿泊業370万円]、[労働生産性:全産業738万円、宿泊業464万円]
【県観光課題③】	観光客受入基盤整備の強化 戦略3
	■観光案内の機能強化や無料Wi-Fi整備など、更なる整備が必要。 ■観光地満足度や観光地の推奨意向について、県民の割合が相対的に低い。 [観光地満足度:県民54%、県外客76%]、[観光地推奨度:県民45%、県外客73%]

6 観光戦略プロジェクト

■基本理念の実現に向け、「インバウンド需要・宿泊需要の積極的な取り込み」、「デジタル技術の積極的な活用」、「観光SDGsの推進」を横断的な視点として、今後取り組んでいく施策を以下の4つに分類し、体系的に取り組みを進めていく。

戦略1

魅力ある観光資源の創出

(1)地域色を活かした観光コンテンツの創出

(2)みやぎの「食」、「自然」、「歴史・文化・芸術」の魅力向上

(3)東日本大震災の記憶・教訓の伝承

(4)DMOの体制強化

戦略2

観光産業の活性化

(1)人手不足対策

(2)観光人材の育成・確保

(3)新たな旅のスタイルへの対応強化

戦略3

観光客受入環境整備の充実

(1)観光地・観光産業の高付加価値化

(2)インバウンド受入環境整備の推進

(3)ユニバーサルツーリズムの推進

(4)オーバーツーリズム対策の推進

(5)交通アクセスの充実

(6)安全・安心な自然公園施設等の整備

(7)地域住民の「おもてなし」意識の醸成

戦略4

国内外との交流拡大の促進

(1)デジタルマーケティングの推進

(2)戦略的な観光プロモーションの強化

(3)市町村、関係団体等と連携したプロモーションの強化

(4)ツーウェイツーリズムの推進

(5)スポーツツーリズムの推進

(6)ゲートウェイ機能を活用した誘客の推進

7 取組の方向性

戦略1	魅力ある観光資源の創出	※プラン本体のページ番号
(1)	地域色を活かした観光コンテンツの創出	●市町村ごとの独自色を活かした観光地域づくり ●各地域が有する食、自然、伝統、季節等の魅力を活かしたテーマ別の広域的モデルルートの造成 等 P28
(2)	みやぎの「食」、「自然」、「歴史・文化・芸術」の魅力向上	●ガストロノミーツーリズム(地域の食、食文化に関わる人、ストーリー性)の推進 ●ベジタリアン、ヴィーガン、ハラル等の食の多様性への対応 ●アウトドアコンテンツの利用促進(宮城オルレ、みちのく潮風トレイル等) ●アニメツーリズム、ロケツーリズムの推進 等 P29 30
(3)	東日本大震災の記憶・教訓の伝承	●震災・防災・減災学習プログラムの造成・情報発信による教育旅行の誘致促進 ●震災伝承施設や語り部活動による記憶と教訓の伝承 等 P31
(4)	DMOの体制強化	●DMOの創意工夫ある取組の推進 ●DMOの新規立ち上げ支援 ●DMOの広域連携推進 等 P31

戦略2	観光産業の活性化
(1)	人手不足対策 ●省人化・省力化設備の導入推進 ●就職マッチング機会の創出や定着・スキルアップ支援 ●外国人人材の積極的な活用 等 P32
(2)	観光人材の育成・確保 ●観光ガイド等の育成・確保 ●学生等の観光に対する理解醸成促進 等 P32 33
(3)	新たな旅のスタイルへの対応強化 ●農林水産業等の関連産業と連携した体験プログラムの充実 ●ワーケーション(企業研修も含む。)の普及拡大 ●プレジャーの普及拡大等 P34

戦略3	観光客受入環境整備の充実
(1)	観光地・観光産業の高付加価値化 ●観光地全体の魅力向上(ライトアップ、植樹、廃屋撤去等) ●宿泊施設の高付加価値化・DX化の推進 等 P35
(2)	インバウンド受入環境整備の推進 ●観光施設等のキャッシュレス対応・無料公衆無線LANの整備推進 ●観光案内板・メニュー表記の多言語化の推進 ●災害や緊急時の情報提供体制の強化 等 P35
(3)	ユニバーサルツーリズムの推進 ●施設や交通機関のユニバーサルデザインの推進 ●「観光施設における心のバリアフリー認定制度」の更なる普及拡大 等 P36
(4)	オーバーツーリズム対策の推進 ●移動手段の多様化による渋滞緩和 ●観光地の混雑状況の可視化 等 P36
(5)	交通アクセスの充実 ●二次交通対策の強化(シャトルバスやレンタカーによる周遊促進等) ●ラストワンマイル対策の推進(多様なモビリティの確保) 等 P37
(6)	安全・安心な自然公園施設等の整備 ●安全な利用に配慮した登山道や遊歩道の整備 ●公園施設の利便性向上 等 P37
(7)	地域住民の「おもてなし」意識の醸成 ●県民向けの観光に対する意識調査の実施 ●旅行者に対する日本のマナー・文化・風習への理解醸成 等 P38

戦略4	国内外との交流拡大の促進
(1)	デジタルマーケティングの推進 ●県内観光客データの収集・分析 ●東北観光DMPを活用した動態データの分析・活用 等 P39
(2)	戦略的な観光プロモーションの強化 ●海外市場別のプロモーションの強化 ●羽田空港等を活用した首都圏からの誘客促進 ●「Visit MIYAGI」の充実 等 P39
(3)	市町村、関係団体等と連携したプロモーションの強化 ●WEBサイト旅東北を活用したプロモーションの推進 ●大阪・関西万博への共同出展による東北一体となったプロモーション 等 P40
(4)	ツーウェイツーリズムの推進 ●県内学校の海外教育旅行の推進 ●SIT(特定目的型旅行)による双方向の交流拡大 ●若年層の海外教育旅行の推進 等 P40
(5)	スポーツツーリズムの推進 ●プロスポーツと連携した誘客促進 ●学生スポーツの大会・合宿誘致の推進 等 P41
(6)	ゲートウェイ機能を活用した誘客の推進 ●官民一体となった誘致強化・受入体制の構築 ●空港・港湾を起点とした周遊プラン造成推進 ●空港・港湾内の利便性向上(観光案内板・通信環境) 等 P41 2

8 各圏域の施策の方向

■地域主体の持続可能な観光地域づくりに向け、みやぎ観光振興会議圏域会議を活用し、各圏域の観光を巡る現状と課題を整理・検討の上、今後圏域として取り組む施策の方向性を定めるもの。

栗原

～～豊かな自然や歴史、文化を活かした、
くりはら田園観光都市の実現～～

①栗駒山や伊豆沼・内沼等の地域資源を活用したコンテンツ
造成・ガイド人材の育成による滞在型観光の推進

②宿泊施設や観光施設等における言語や多様な食習慣等の
インバウンド対応強化・認知度向上に向けた情報発信

③**周辺地域の自治体やDMO等**と連携した平泉や仙台・三陸
沿岸部と絡めた周遊ルート造成等、さらなる誘客に向けた広
域的な取組の強化

大崎

～～世界農業遺産「大崎耕土」の自然・歴史・
文化・食を活かした持続可能な観光の推進～～

①鳴子温泉郷を軸とした賑わい創出の取組への支援や観光
コンテンツの高付加価値化推進、二次交通の充実や他地
域との連携による周遊・長期滞在の環境整備

②**高品質な食材や史跡等の**観光資源を活かした旅行商品開
発・教育旅行及び農泊の受入態勢充実とMICEの誘致等

③圏域内でのDMO創設や**観光地域づくりをけん引する新たな
人材との連携**、体制強化への支援・ターゲットを絞った観光
情報の発信、観光DXの推進

仙南

～～いっちゃね、みやぎ仙南！「みやぎ
蔵王」ブランドを広域で推進！ ～～

①**仙南圏域の象徴「みやぎ蔵王」をはじめとする圏域の多彩な
観光資源を活用した広域周遊促進**

②**旅行需要の変化に対応した宿泊スタイル、滞在型メニューの
充実や教育旅行の誘致**

③**仙南圏域の特色ある観光コンテンツを活用したインバウンド
観光客の誘客促進**

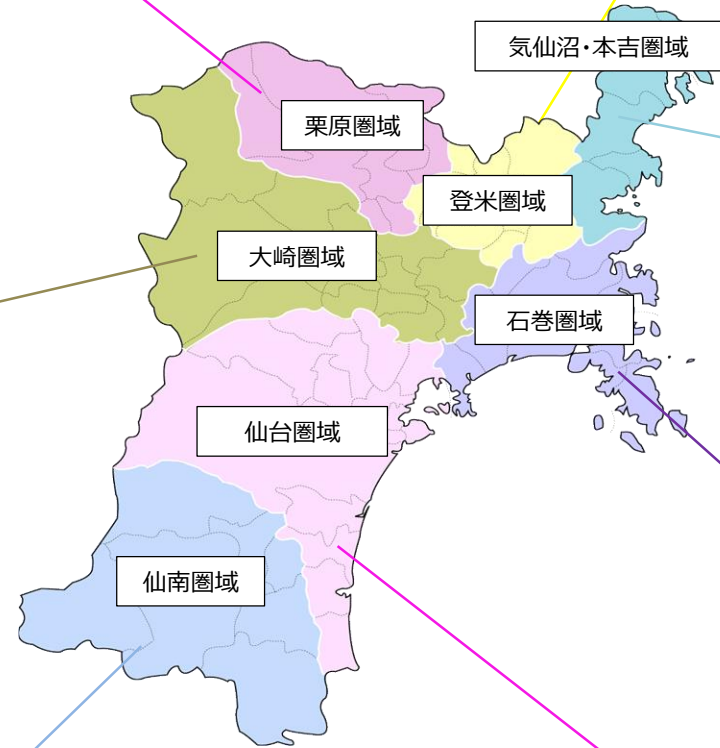
仙台

～～東北・宮城のゲートウェイ機能を活か
した周遊性に優れた観光地づくり～～

①テーマ性・ストーリー性のある観光ルートの造成による圏域
周遊観光の推進、教育旅行の推進

②観光客のニーズ・嗜好に応じたSNSや動画コンテンツを活
用した魅力発信、圏域内の市町村や仙山交流のネット
ワークを活用した情報発信強化

③DX化や高付加価値化の観光コンテンツづくり、持続可能
な観光地域づくりに関する研修や情報交換会の開催を通
じた観光人材育成支援



登米

～～自然と歴史が織りなす うまし
うつくし 登米の旅～～

①伊豆沼・内沼をはじめとする豊かな自然や郷土料理「はっと
汁」等の食文化など、既存の観光資源の魅力の再認識
と圏域ならではの魅力あるコンテンツづくり

②グリーンツーリズムの充実や圏域内の農畜産物を活用した
手作り体験と農泊を組み合わせた滞在交流型観光の推進

③事務所公式SNS「ほっとめーしょん」等を活用し、ターゲ
ットに応じた情報発信の強化

気仙沼
本吉

～～観て、食べて、感じて しおかぜ育む
三陸の魅力を再発見～～

①海産物をはじめとする地域の食をテーマとしたガストロノ
ミーツーリズムの推進・トレイルやマリンスポーツ・化石発掘
体験、キャンプ等のアクティビティを活用したアドベンチャー
ツーリズムの推進

②気嵐や星空観測、魚市場見学など、圏域ならではの夜間・
早朝のイベントを活用したツアー造成

③多言語対応の観光案内板の整備や通訳ガイドの育成など
によるインバウンドの受入環境整備の推進

石巻

～～海まち 空まち 心まち
次の旅先 いしのまき～～

①地域の特色を活かした「石巻圏域ならではの」の観光プログラ
ムの開発及び宿泊施設における高付加価値化やサービス充
実への支援などによる滞在型・周遊型観光の推進

②「石巻圏域ならではの」の文化や自然を生かした特別な体験プ
ログラム等のサービス充実などによるインバウンド獲得に向けた
観光資源の磨き上げ

③近隣地域との連携を強化し、広域的な観光ルートの企画や
交流イベントなどによる交流人口・関係人口の拡大に向けた
地域間交流の推進

④DMO、市町及び企業・関係団体など、地域一体となった
観光振興の推進等